

小豆島町学校ICTレポート

「GIGAスクール構想」の紹介

○GIGAスクール構想とは

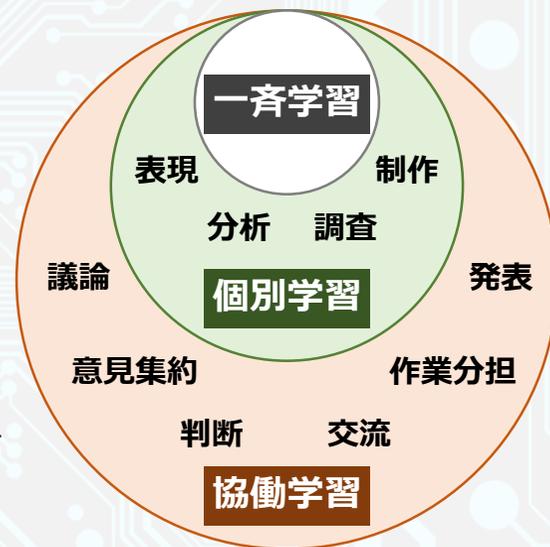
「GIGAスクール構想」とは、1人1台の学習者用端末と高速大容量の通信ネットワークを一体に整備する文部科学省の事業です。全ての子どもたちに対して、それぞれ個々に適した学習を提供し、不確実な未来を生き抜くための資質・能力を育てる環境を整備することが目的です。当初は2023年度までに整備する予定でしたが、新型コロナウイルス感染対策を踏まえ、2020年度中に完了するように前倒しされました。

○授業の変化

みなさんも人工知能などの技術発達により、人の仕事が奪われるという話を聞いたことがあるでしょう。この予測値は研究によって違いがありますが、OECDの予測「約10%が機械によって置き換わる」が妥当なところと言われています。では、90%の人間にとって安泰なのでしょうか？

ひとりの行う仕事の100%すべてが自動化されるというよりも、ひとりひとりが受け持っている仕事の中で、過去の前例の延長線上にある判断やルーティン業務が置き換わるという分析が正確なところでは、逆にいえば、「機械化が難しい創造的な仕事」と、「機械にやらせるには高くつく低賃金の仕事」が残ると予測されているのです。つまり、過去の前例を「パターンとして学習」し、これに沿って「問題を解く」「判断する」といった仕事は減少していくことになります。これからは、自ら答えのない課題を見だし、主体的に解決しようとするのが求められます。

これまでの学校の授業は、「一斉学習」で全員が同じ課題に取り組むことが主でした。GIGAスクール構想では、これまでの「一斉学習」に加え、「個別学習」「協働学習」と枠を広げることを目指しています。自ら問題を見だし、主体的に解決できる能力を身につけてもらうことが狙いです。学習者端末と高速大容量通信ネットワークは児童生徒自ら情報発信するための手段（ツール）として用意されるものなのです。



○小豆島町の取り組み

小豆島町においても、1人1台学習者用端末として、iPadの導入が決まりました。合わせて、小豆島町の全小学校と中学校の校内ネットワークを高速化する工事が予定されています。2021年3月には、これらの整備が終了し、学校でiPadが使用できる環境になる予定です。

小豆島町の目標

全児童生徒が1日1時間はiPadを使った授業を受ける